

第 50 回東京都消防操法大会

女性消防操法実施要領
女性消防操法審査要領

一般社団法人 東京都消防協会

操法実施要領

第 50 回 東京都消防操法大会

女性消防操法実施要領

操法は、「消防操法の基準」（昭和 47 年 5 月 11 日消防庁告示第 2 号）並びに「消防訓練礼式の基準」（昭和 40 年 7 月 31 日消防庁告示第 1 号）に準じ、次の要領により行う。

1 操 法

- (1) 軽可搬ポンプ操法とする。
- (2) 5 人操法とする。
- (3) 手びろめによる二重巻ホース 1 線延長とする。（ホース 3 本）
- (4) 標的を使用し、放水を行う。
- (5) 収納は、省略する。

2 機 械

D－I 級軽可搬ポンプ（日本消防協会仕様の二輪台車付）

3 水利の種類・位置

水利は貯水槽とし、ポンプ左側後方に設置する。

4 火点の標識

有効放水測定装置付標的（別図 1）とする。

5 操法実施上の基本的事項

- (1) 操法は、安全を確保するとともに迅速確実に行うこと。
- (2) 動作及び操作の区切りは、特に節度正しく行うこと。
- (3) 機械器具に精通するとともに、これの愛護に心掛けること。
- (4) 他の隊員の任務に属する操作を行ってはならない。

6 出場隊等

(1) 出場隊資格

（一社）東京都消防協会会員である消防団員とする。

(2) 出場隊員等の指定上の留意事項

出場する消防団の団長は、操法大会出場団員（補欠を含む。）、旗手、会場管理係員、ホース収納係員、駐車場係員等の指定にあたっては、健康管理区分等に十分配慮し、任務遂行可能な者を指定すること。

(3) 服装等

保安帽、活動服（特別区消防団）または作業服（多摩・島しょ地域消防団）、階級章（布製、ウェルダー製）、運動靴、手袋、ゼッケン

7 各動作及び操作の原則事項

(1) 各隊員の移動

指揮者及び隊員の行動は、原則としてかけ足とし、動作および操作の区切りは、節度正しく行うこと。

ただし、物を持っているときは動作の流れに沿って良い。

(2) 方向変換の発進及び停止

方向を変えて発進するときは、後足をひきつけないものとする。ただし、指揮者が操法開始及び終了報告する際の動作は、方向を変え前足をひきつけて発進するものとする。

また方向を変えて停止するときは右（左）向け停止の要領によること。

(3) ホースの搬送要領

ホースを搬送するときは、左手でめす金具部を保持し左脇に抱えて搬送すること。

(4) ホースの展張要領

ホースを展張するときは、めす金具近く（はかま部分）を右足で押え、右手でおす金具を持ち、左手を輪状ホースに添え左足を1歩ふみ出して右手で展張する。なお、ホース展張時は、体及び左足先を火点側に向ける。

(5) ホースの結合と離脱

ホースとホースを結合する場合は、おす金具がやや上を向くよう右足でホースをおさえ、これにめす金具部を両手で持って結合し、引いて確認する。離脱する場合は、おす金具近くを左足でおさえ両手でめす金具部を持って離脱する。

(6) 筒先の結合と離脱

筒先とホースを結合する場合は、第3ホースを展張後おす金具を結合し易い位置におく。次に筒先を両手で持ち、左足でおす金具がやや上を向くようにホースをおさえ、おす金具に筒先を合わせ差し込み、引いて確認する。筒先を離脱するには、右手でノズルを持ち、右足でホースをまたぎ、左足でホースをおさえ離脱する。

(7) 基本注水姿勢

右手は筒先下部、左手は筒先上部を握り、筒先下部を握った右手を右腰上部にあてるようにして仰角おおむね30度で保持し、体形は左足を1歩前、ひざをやや曲げると同時に体重を前方に置き、右足は放水の反動力を支えるため真っすぐ伸ばし前傾姿勢をとる。

(8) 立った姿勢での操作

立った姿勢で操作を行うときは、足を横に開くか1歩前に踏み出した姿勢をすること。

8 その他の原則事項

- (1) 前後左右とは、隊員が火点に向って前進する方向を基準とする。
- (2) 操法実施中「……にいたり」とは、足を横又は前に1歩踏み出した姿勢をいい、「……停止」とは、基本の姿勢を意味するものである。

(3) 凡 例

指	………	指揮者
①	………	1 番員
②	………	2 番員
③	………	3 番員
④	………	4 番員

9 操法実施上の統一事項

(1) 一 般

ア 日本消防協会仕様の器具（ポンプ、台車）を使用することを原則とし、改造等は認めない。

イ ガバナーの調整は、エンジン及びポンプの性能、寿命を損なうことになるので禁止する。

ウ けん引ロープ（10m）は、切断してはいけない。ただし、ロープを二重にして使用すること及びけん引部分の長さを、結び又はテープにより調整することはよい。

エ 台車に乗せたホース（3本）は、倒れないようにゴムひも等で固定してもよいが、嵩上げしてはいけない。

オ 燃料缶、消火栓開閉ハンドル等、操法に直接必要のないものは台車に積載しなくてよい。

カ 指揮者の「定位につけ」の号令で定位につく場合、台車枠（0.9m×1.3m）内に入ってはいけないが、「操作はじめ」以降は入ってよい。

キ 延長ホース及び余裕ホースの修正は、通水前までに行うこと。

ク 集合線、放水停止線等での足の位置の例示は、別図2のとおりとする。

ケ ポンプ台車は台車枠からはみ出さないこと。ただし、藤かご及び台車ハンドルは除く。

(2) 指 揮 者

ア 常に指揮に便利で、かつ隊員を掌握できるところに位置すること。

イ 隊員の動作及び操作を十分に監視し、必要な命令及び指示を与えること。
ウ 号令は明りょうに、命令及び指示は簡明適切に行って隊員に徹底させること。

(3) 1 番 員

ア 定位について、両手を台車側面に添えるときは、台車の固定物を把持すること。（筒先、吸管等を把持してはいけない。）
イ 台車を旋回した後、④の「よし」で、①が③の1歩後方で待機する姿勢は、開脚のままとする。
ウ 筒先結合要領は、反転する方法でも、ホースを展張した体勢のまま結合し、一歩前進する方法でも良い。
エ ②に「放水始め」と合図するときは、顔は前向きでも後ろ向きでも良いものとする。
オ 余裕ホースを取り始める位置は、第3ホースの中央部（約10m）より先の位置から取り始めること。この場合、折り膝又はそれに準じた姿勢であること。
カ 筒先を振って余裕ホースを取ってはいけない。
キ 余裕ホースを取るときは、後方を向いても良いものとする。
ク ノズルは予め開放しておいても良いが、注水位置で開放する動作を必ず行うこと。
ケ 排水操作後または『排水やめ』の指示があったときは、ノズルを完全に閉じること。

(4) 2 番 員

ア ホースを展張したのち、おす金具付近を折って置くときは、ホース上におす金具を重ねて置くものとする。
なお、置くときは、左手を添えても良いものとする。
イ 第1ホースの余裕ホースは、放口から約2mとする。
ウ 第1ホースの余裕ホースを取った後、めす金具を放口に結合する時は、ホースを踏まなければ、またいでも良い。
エ ホースを展張したとき、ホースが左に流れたらホースに沿って前進し、ホースが右に流れたら真っ直に進むこと。
オ ①から「放水始め」の合図を受ける位置は、第3結合部より前方とする。
カ 「放水始め」の伝令に行くとき、ホースをまたぐのは、第2ホース内であればどこでも良い。またその他の場合にはホースに沿って走るものとする。

キ 「ホースに沿って走る」とは、ホースからおおむね1 mとし、ホースの流れに沿って進むことをいう。

(5) 3 番 員

よじれたホースを修正するときは、結合金具をひきずるような修正をしてはいけない。

(6) 4 番 員

ア 送水ポンプ圧力は、0.35MPa を超えることがあってはならない。

（「放水やめ」に伴う圧力上昇は、含まないものとする。）

イ ネジ式の吸口キャップは、落ちない程度に緩めておいても良いものとする。

ウ 吸管操作で、③が吸管結合の補助に来るのが遅くなったときは、吸管の結合操作を始めても良いものとする。

エ 燃料コックは、操法開始前に開けておいても良いものとする。

オ エンジンを開始するとき、台車に足をかけてはいけない。

カ エンジンを開始するときのスロットル位置は、起動適正位置であること。

なお、始動後に揚水するときは、真空作成用のスロットル位置（クリック）を必ずしも利用しなくても良い。

キ 放口コックの開閉は、片手で行ってもよいが、動作の最後は必ず両手で行うこと。

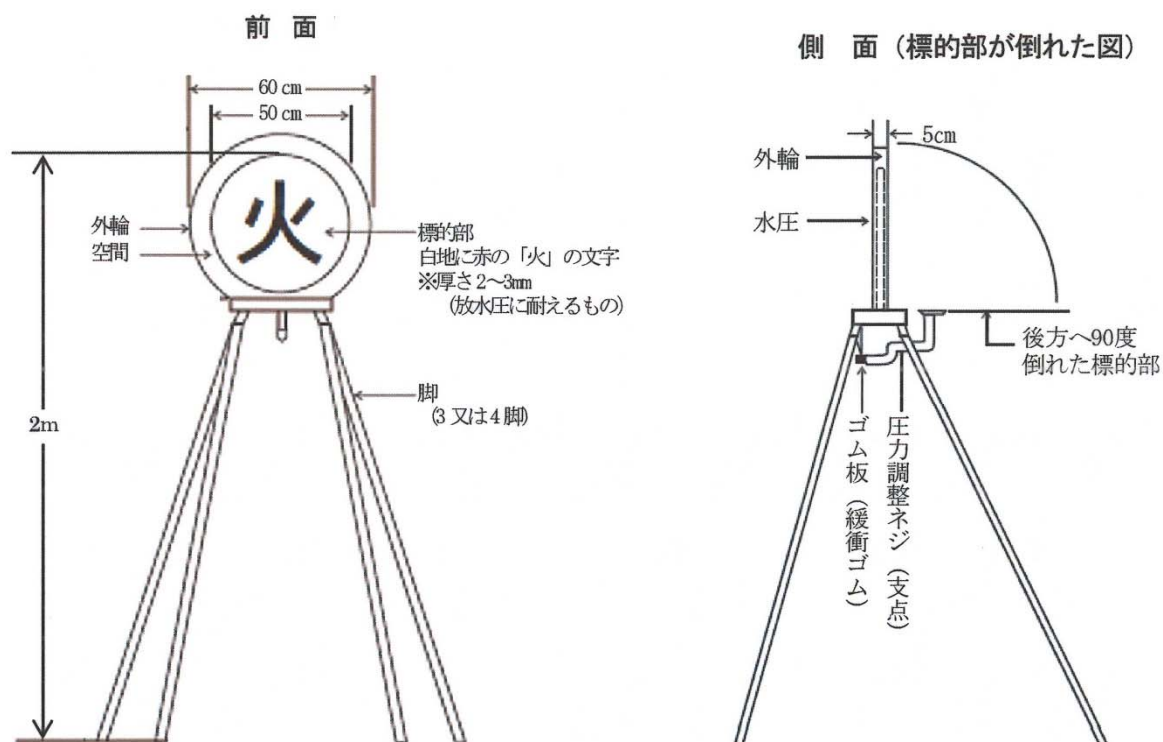
(7) 補 助 員

ア 操作員に支障のない位置で待機し、吸管が投入された直後から「放水やめ」までの間の補助をすること。

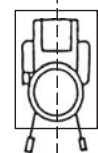
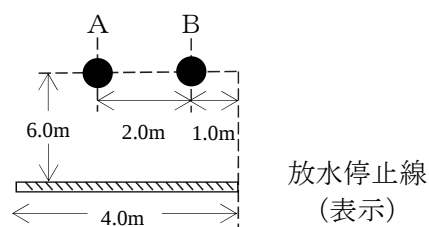
イ 補助する際、吸管及び吸管ひかえ網等の修正をしてはならない。

ウ 指揮者の「集合線に集まれ」で④が整列する位置に吸管がある場合は吸管を修正しても良い。

別図 1 標的及び位置図



標的の位置は、それぞれ標的の中心から計測するものとする。



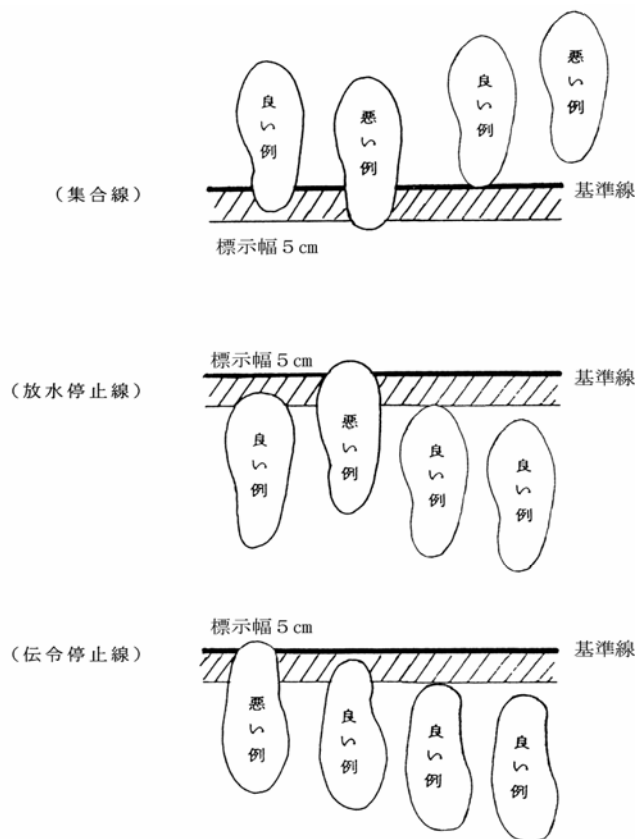
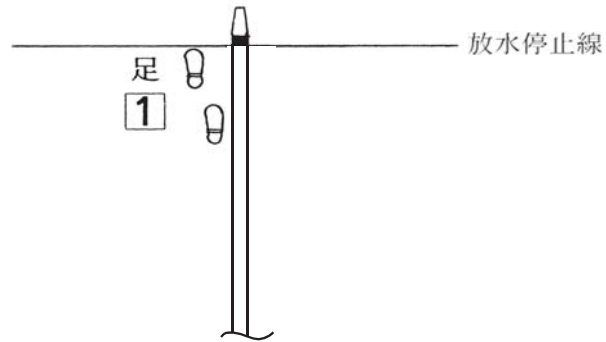
台車枠中心線



標的設置位置

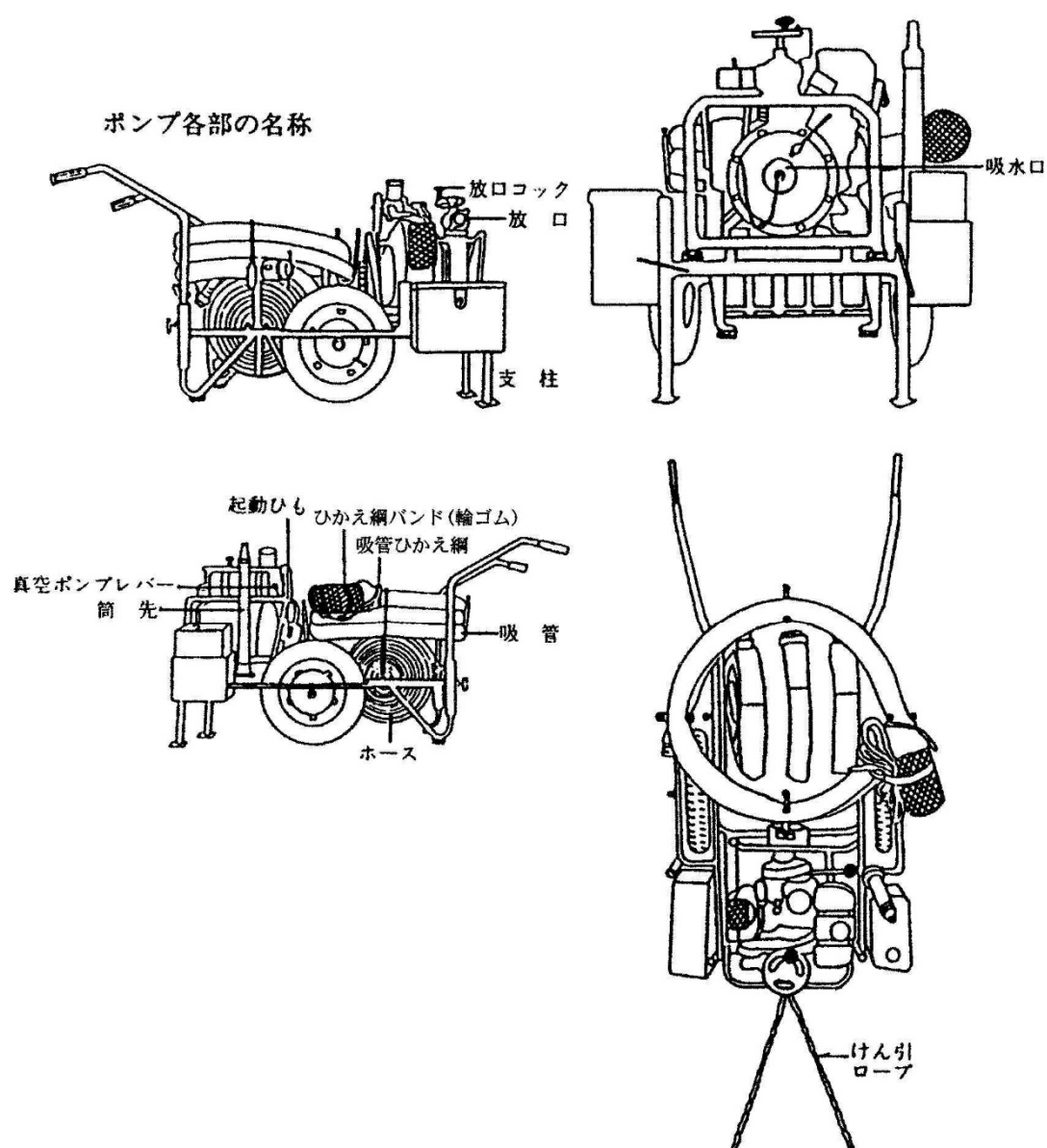
別図 2

1 番員の爪先が放水停止線より出ないこと

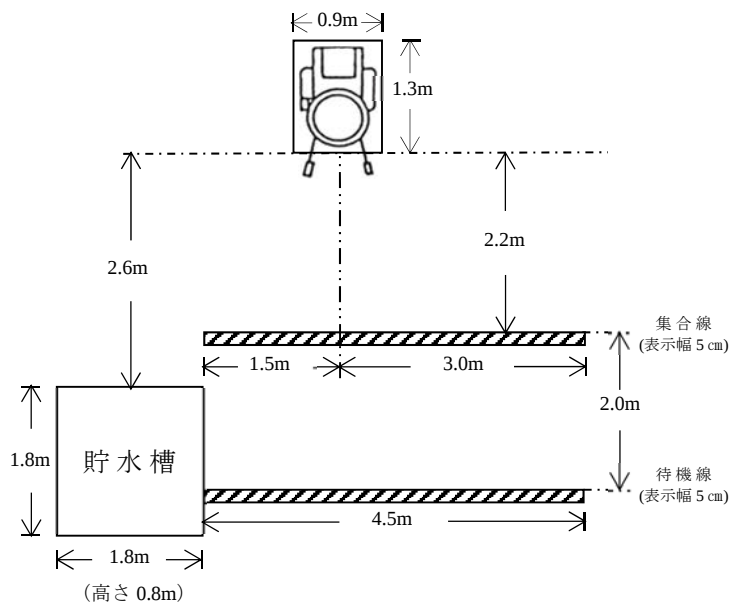


10 機械器具説明図

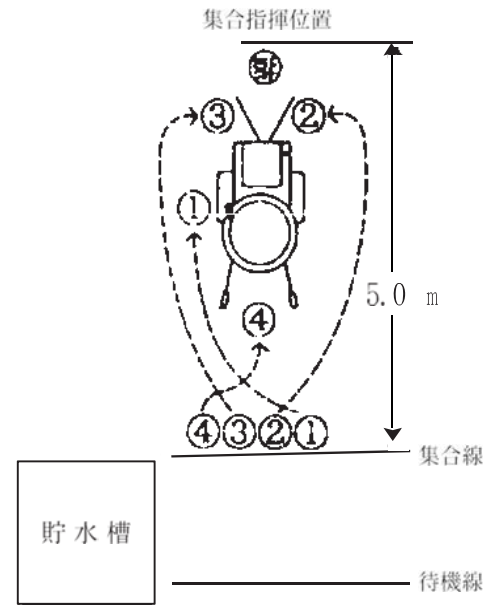
積 載 品	
消防用ホース (40mm×20m以上)	3 本
吸 管 (40mm×4.5m以上)	1 本
筒 先 (可変ノズル付)	1 本
吸管ひかえ綱 (8mm×6m以上)	1 本
けん引ロープ (10mm×10m以上)	1 本



11 台車・水利等の位置

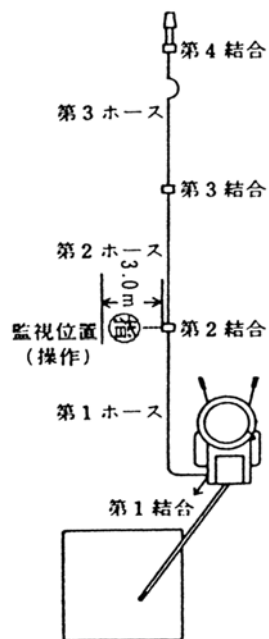


12 定位等

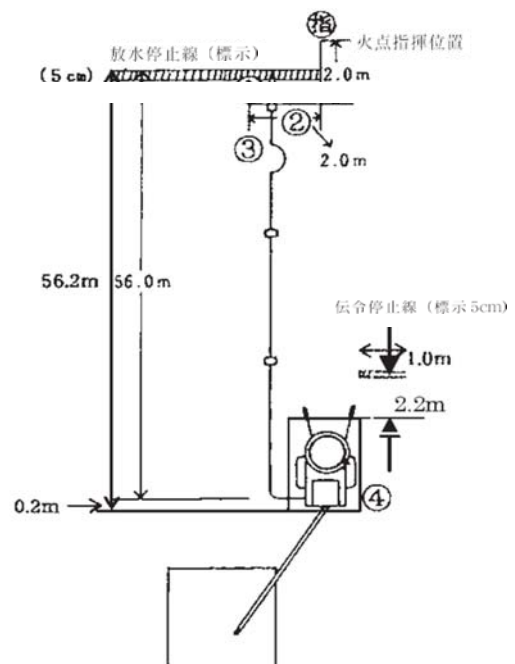


13 延長図

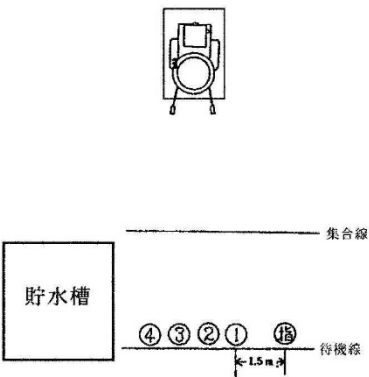
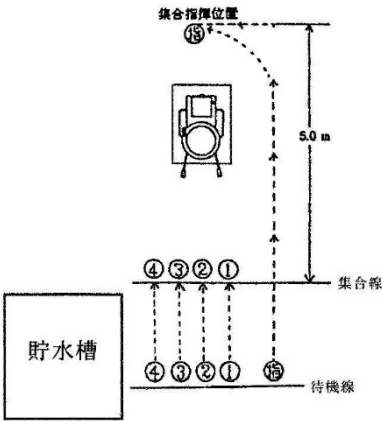
(1) 各部の名称



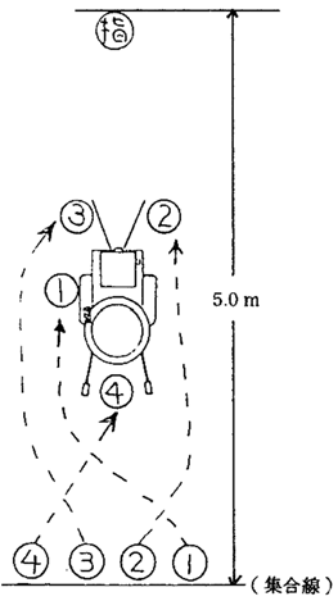
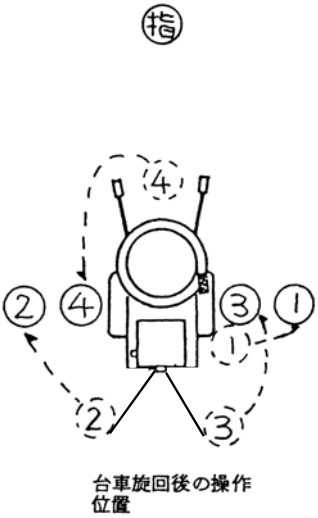
(2) 隊員の部署位置



14 操法実施要領

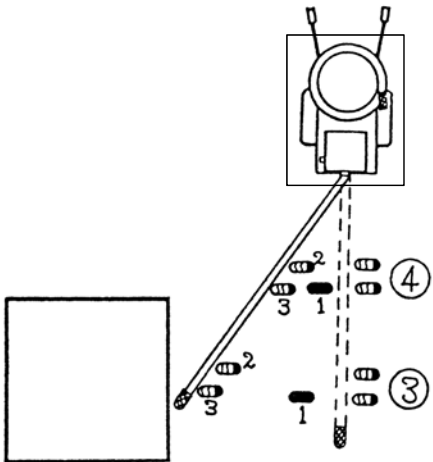
実 施 項 目	実 施 要 領
待 機 	指 揮 者 待機線上①の右側 1.5 メートルの位置で「整列休め」の姿勢で待機する。 各 隊 員 待機線上に一直列横隊の隊形で、②と③との中間がポンプの中央になるよう整列し、その後「整列休め」の姿勢で待機する。
集 合 	指 揮 者 基本の姿勢をとり、かけ足行進の要領で発進し集合位置（集合線から前方 5 メートルでポンプの中心線）で左向け止まれの要領で停止して「集まれ」と号令し、各隊員を集合させる。 各 隊 員 ⑤の「集まれ」の号令で基本の姿勢をとり、かけ足行進の要領で発進し、集合線上に②と③の中間がポンプの中央になるよう一直列横隊の隊形で②を基準に自主整とんする。（整とん要領は①を除く隊員は右手を腰にあて、ひじを側方に張る。頭は②は前方①は左③④は右に向けて整とんする。）
点 呼	指 揮 者 各隊員が集合線に整列したならば「番号」と号令する。

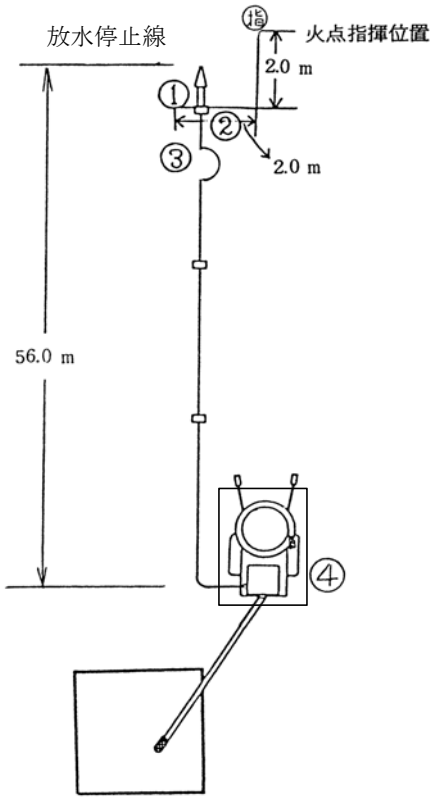
実 施 項 目	実 施 要 領
	各 隊 員 ⑩の「番号」の号令で①から順次各自の番号を呼唱する。
開始報告	指 揮 者 開始報告 「〇〇消防団、只今から消防操法を開始します。」 各 隊 員 ⑩の開始報告中は基本の姿勢で待つ。
想定付与	指 揮 者 「火点は前方の標的、水利はポンプ左側後方貯水槽、手びろめによる二重巻ホース1線延長」と号令する。 各 隊 員 基本の姿勢で ⑩の想定を受ける。
定 位	指 揮 者 「定位につけ」と号令し、各隊員の動作を監視する。 1 番 員 半ば左に向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、台車左側にいたり、両手を台車側面にそえ、前傾姿勢をとり前方を直視する。

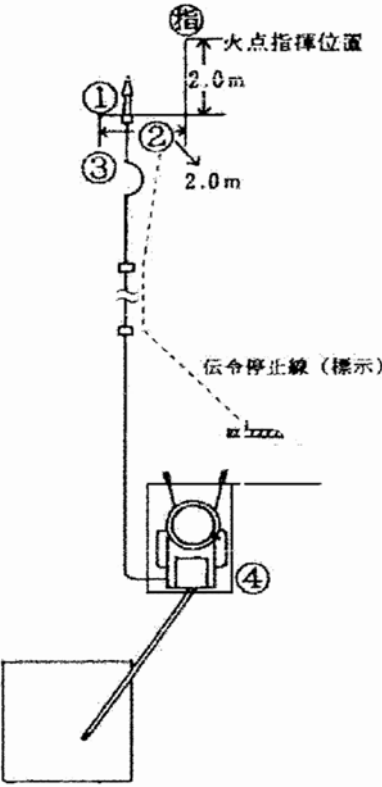
実 施 項 目	実 施 要 領
	2 番 員 半ば右に向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、台車右側先端部にいたり、右側支柱を上げ固定したのちけん引ロープを握り右足を1歩踏み出し、前傾姿勢をとり前方を直視する。 3 番 員 半ば左に向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、台車左側先端部にいたり、左側支柱を上げ固定したのちけん引ロープを握り左足を1歩踏み出し、前傾姿勢をとり前方を直視する。 4 番 員 半ば右に向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、ハンドル中央部にいたり、ハンドルを握り、前傾姿勢をとるとともに各隊員の動作を確認後「よし」と合図し前方を直視する。
水利部署ならびに第1線延長 指 揮 者 	(1) ④の「よし」の合図後、「操作始め」と号令し、次に台車旋回状況を確認④の「よし」の合図後、右に大きく向きを変え監視位置へ移動し停止したのち、各隊員の操作状況を監視する。 (2) ②が第1ホース延長後おす金具を地面に置くと同時に①に先行して火点に向って前進し、火点指揮位置に停止して火点状況を確認（約3秒）したのち、左に大きく向きを変えて操作の状況を監視し、②が注水補助位置に停止し「伝達終了」の合図後、右に大きく向きを変えて火点状況を監視する。

実 施 項 目	実 施 要 領
	1 番 員 (1) ㊦の「操作始め」の号令により、他の隊員と協力し台車を 180 度右旋回させたのち④の「よし」の合図で 1 歩後退する。次に③の吸管搬送後、第 3 ホースを左脇に抱え、右手で筒先を保持し、第 3 ホース延長地点にいたり、筒先をその場に置き第 3 ホースを展張し、次いで筒先を両手で持ってこれを第 3 ホースと結合し、火点に向って基本注水姿勢をとる。 (2) ②が第 2 ホースを延長し第 3 ホースに結合して姿勢を正した時点で②に対し「放水始め」と合図し両手で筒先を持ったまま第 3 ホースを延長するとともに余裕ホースを取り注水位置にいたり基本注水姿勢をとる。 (3) 次に右手を筒先から離すことなく前方へ移動させ、同時に右腕でプレイパイプを脇腹に抱え込み、左手も筒先から離すことなくノズルを握り、徐々に開き、ノズル開放後左手をプレイパイプの先端、右手はプレイパイプの末端へと離すことなく移動させ、基本注水姿勢をとる。 2 番 員 (1) ㊦の「操作始め」の号令により、他の隊員と協力し、台車を 180 度右旋回させたのち、けん引ロープを操作に支障のない所に置き、支柱を下げ固定し④の「よし」の合図後、台車左側の④の 1 歩後方にいたり、④の吸管搬送後、第 2 ホースを搬送するのに便利な位置におろし、次いで第 1 ホースを展張するのに便

実 施 項 目	実 施 要 領
	利な位置（２メートルの余裕ホースに考慮する。）にホースのめす金具が手前になるように地面に立て、第１ホースを展張する。次いで、おす金具近くを折って第２ホースの近くに置き、めす金具を右手で持ち、左手でホースを持って約２メートルの余裕ホースをとった後、両手でめす金具を持って放口に結合し確認する。次いで第２ホースを左脇に抱え、右手で第１ホースのおす金具を持って第１ホースを延長し、第２結合位置にいたり、第１ホースのおす金具をその場に置き、第２ホースを展張し、おす金具近くを折ってその場に置き第１ホースと第２ホースを結合して確認する。次いで第２ホースのおす金具を右手で持って第２ホースを延長し、第３結合位置にいたり、第２ホースのおす金具をその場に置き、第２ホースと第３ホースを結合し確認する。次いで火点の方向に向きを変え基本の姿勢をとる。次いで①の「放水始め」を復唱し、回れ右をして右足を引きつけることなく発進し、第２ホースをまたぎ台車方向に前進する。 (2) 放水開始の伝達 台車前２メートルの位置で④に相対して停止し右手を垂直に上げて「放水始め」と伝達し④の復唱を受けたのち、右手をおろし回れ右をして右足を引きつけることなく発進し、注水補助位置（①の右側２歩後方）で停止し「伝達終了」と合図し、右足を１歩踏み出しホースを持って注水補助姿勢をとる。

実 施 項 目	実 施 要 領
	3 番 員 ㊦の「操作始め」の号令により、他の隊員と協力し、台車を180度右旋回させたのち、けん引ロープを操作に支障のない所に置き、支柱を下げ固定し④の「よし」の合図後、台車右側の吸管積載部にいたり、両手で吸管を持って④と協力して台車からはずし後方へ搬送しながらストレーナー付近に持ち変え、吸管のよじれをとりながら、台車後方に伸長し、その場に置き、かけ足の要領で発進し、④の2歩後方の位置にいたり、吸管をまたぎ、両手で吸管を持ち、④の吸管結合の補助を行う。 ④の「よし」の合図で両手を吸管から離し、右足を軸に左足で吸管をまたぎながらストレーナー方向に向きを変えて発進し、ストレーナー付近の吸管右側にいたり、両手で吸管を持ち上げ、④の「よし」の合図で④と歩調を合せて左足から2歩半（3挙動）で吸管投入に便利な位置まで進み、吸管をその場に置き、吸管ひかえ綱を取りはずして（ひかえ綱を固定しておく輪ゴムはそのまま藤かごに付けたままとする）左脇に置き、左手でひかえ綱の根元と末端を持ち右手で吸管を持って立ちあがり、「よし」と合図して左足を半歩前に踏み出し、④の協力で吸管を静かに投入する。次いでひかえ綱の末端を左手に持って台車方向に向きを変えて発進し、台車後部にいたり、台車の一部にもやい結びで結着（末端を10センチメートルほど残して結着する。）する。次いで吸管設置部をまたいで延

実 施 項 目	実 施 要 領
	長ホースの左側を通り注水補助位置（②の左側１歩後方）にいたり、ホースを持って注水補助姿勢をとる。 4 番 員 (1) ㊦の「操作始め」の号令により、他の隊員と協力し、台車を 180 度右旋回させたのち、各隊員の動作確認後「よし」と合図し、台車左側の吸管積載部にいたり、両手で吸管を持って③と協力して台車からはずし、後方へ搬送し、台車後部にいたると同時に吸管めす金具付近に持ち変えよじれをとりながら台車後方に伸長し、めす金具が吸口に結合しやすい位置にくるように置く。次いで右足で吸管をまたぎ、吸口覆冠をはずし、吸管のめす金具を両手で持ち、両足のふくらはぎで、吸管をはさみ、吸管を吸口に結合し、「よし」と合図する。次いで両手を吸管から離し、右足を軸に左足で吸管をまたぎながらストレーナー方向に向きを変えて発進し、吸管中央部にいたり両手で吸管を持ち上げ「よし」と合図し、③と歩調を合せて、左足から２歩半（３挙動）で吸管投入に便利な位置まで進み③の投入合図の「よし」で左足を半歩前に踏み出し、静かに投入補助する。次いで台車右側のポンプ運転に便利な位置にいたる。 (2) 送水準備 起動ひも（起動ボタン）、真空レバー、スロットルレバーを操作したのち、吸管接地部をまたぎ台車左側にて、余裕ホースを配意し、再び吸管接地部をまたぎ台車右側にて、火点に向って姿勢を正し、放水開始の伝達を

実 施 項 目	実 施 要 領
	待つ。 (3) 放水開始及び送水操作 ②の「放水始め」の伝達に右手を垂直に上げて「放水始め」と復唱し、右手をおろしてから、放口コックを操作して送水を開始する。
放水中止  The diagram illustrates the procedure for stopping water release. It shows a vertical hose with a nozzle at the top. A person (labeled ④) is at the bottom, operating a control. A dashed line indicates the '伝令停止線 (標示)' (Command Stop Line (Marking)). A '火点指揮位置' (Fire Point Command Position) is marked at the top. Distances of 2.0m are indicated between the nozzle and the command stop line, and between the command stop line and the operator. The nozzle is labeled ①, the hose is ②, the command stop line is ③, and the operator is ④.	指 揮 者 審査員の指示により①の方向に大きく向きをかえ「放水やめ」と号令し各隊員の操作状況を監視する。次いで①の「よし」の合図を確認したのち、火点方向に向きを変え、鎮圧状況を確認する。 1 番 員 Ⓢの「放水やめ」の号令で基本注水姿勢からノズルを閉じ（実施項目：水利部署ならびに第1線延長の実施要領1番員（3）を参照）「放水やめ」と復唱し、②が④に放水中止の伝達を終え注水部署にもどり「伝達終り」の合図でノズルを開放し下に向けて排水する。審査員の指示により筒先の先端を右手で持って右腰部にさげ左足を右足に引きつけ、姿勢を正し「よし」と合図する。 2 番 員 ①の「放水やめ」の復唱で「よし」と合図して後ろに向きを変えホースの右側を通過して台車前2メートルの位置で④に相対して停止し、右手を横水平にあげて「放水やめ」と伝達し、④の復唱を受けた後右手をおろし、回れ右をして右足を引きつけることなく発進し、注水補助位に停止し、①に「伝達終わり」と合図する。

実 施 項 目	実 施 要 領
	3 番 員 ①が排水操作を行い、筒先を右腰部にさげ、「よし」の呼唱と同時に左足を右足に引きつけ基本の姿勢をとる。 4 番 員 ②の「放水やめ」の伝達に右手を横水平にあげて「放水やめ」と復唱し、右手をおろし、スロットルレバーを操作し、放口を閉じ、エンジンを停止して火点に向かって姿勢を正す。
収 納	省略する。
集 合	指 揮 者 審査員の指示により①の方向に向きを変え「集合線に集まれ」と号令したのち、集合指揮位置に向きを変えて発進し、隊員に相対して停止する。 1 番 員 ㊦の「集合線に集まれ」の号令に「よし」と呼唱し右足でホースをまたぎながら斜め右前方に大きく1歩踏み出し、左足で第3ホースのおす金具近くを押え両手で筒先を離脱し、右手で保持し、台車右側にいたり、筒先を収納し、集合位置で回れ右をし基本の姿勢をとる。 2 番 員 3 番 員 4 番 員 ㊦の「集合線に集まれ」の号令に「よし」と呼唱し回れ右をし、集合線で停止し、回れ右をし基本の姿勢をとる。

実 施 項 目	実 施 要 領
身体・服装の点検	指 揮 者 各隊員の動作を監視する。最後の隊員が服装を整え終ると同時に、服装の乱れを整える。 各 隊 員 集合線に停止したならば直ちに服装の乱れを整え、整列休めの姿勢で待機する。最後の隊員が集合線にもどり、服装を整え終ると同時に自主整頓して基本の姿勢をとる。
点 呼	指 揮 者 各隊員が集合線に整列したならば「番号」と号令する。 各 隊 員 ⑩の「番号」の号令で①から順次各自の番号を呼唱する。
終了報告	指 揮 者 終了報告 「〇〇消防団、消防操法を終了しました。」 各 隊 員 ⑩の終了報告中は基本の姿勢で待つ。

実 施 項 目	実 施 要 領
解 散	指 揮 者 各隊員に対し「わかれ」と号令し、各隊員に答礼し解散させる。 各 隊 員 ④の「わかれ」の号令により、一斉に挙手注目の敬礼を行い解散する。

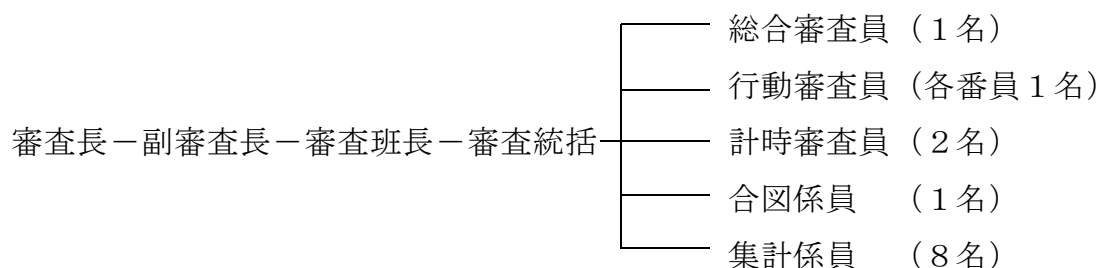
女性消防操法審査要領

女性消防操法審査要領

1 審査員の構成

- (1) 審査長 東京消防庁消防学校長
- (2) 副審査長 東京消防庁消防学校副校長
- (3) 審査班長 東京消防庁消防学校校務課教務係長
- (4) 審査統括 東京消防庁消防学校校務課係長
- (5) 審査員
 - ア 東京消防庁消防学校職員
 - イ 審査長が指定する消防職員

2 審査員の編成



3 審査の範囲

審査の範囲は、「操法開始」を指示したときから、指揮者の「わかれ」により解散するまでの間とする。

4 審査の要点

消防操法の基準（昭和 47 年 5 月 11 日消防庁告示第 2 号）によるほか、別に定める「第 50 回東京都消防操法大会女性消防操法実施要領」に基づき各隊員の操作要領、行動、動作全般及びホース延長並びに有効放水所要時間について審査し、要点は次のとおりとする。

- (1) 士気、規律
- (2) 迅速な行動、動作
- (3) 確実な操作
- (4) 消防用機械器具の精通とその愛護
- (5) 各隊員の安全

5 審査の基準及び方法

採点方法は、各操作員の行動審査得点、計時審査得点及び総合審査得点を加算する方式とする。

(1) 行動審査の採点方法

各操作員に 10 点を配分し、持点から減点した残りの点数を得点とし、操作員 5 人の合計点数を得点とする。

(2) 計時審査の採点方法

指揮者の「操作始め」の号令の「め」から、審査員が 2 個目の標的による有効放水と認めた時点までの所要時間を計時し、55 秒台を 20 点、それより時間を超えた場合、持点から 1 秒につき 1 点減点とする。

なお、55 秒より速い場合は 1 秒につき 1 点加算し、最大 5 秒 5 点までを得点とする。

(3) 総合審査の採点方法

士気・規律、敏捷性、確実性、器具整備取扱及び安全性の 5 項目に各 5 点を配分し、5 段階評価した 5 項目の合計点数をその隊の総合評価点とする。

6 操法進行の合図

(1) 操法開始合図

待機線上にいる指揮者の延長線上で、審査員が口頭により直接開始の意思確認を行い、準備がよければ『白旗を正面水平から真上』に振り「操法開始」と合図する。

(2) 放水中止合図

標的による有効放水後に審査員が『赤旗を正面水平から真下』に振り「放水中止」と合図する。

(3) 排水やめ合図

①がノズルを開放し下に向けた後、速やかに審査員が①の概ね前方にいたり『赤旗を正面斜め前方』に振り「排水やめ」と合図する。

(4) 集合合図

排水操作後に審査員が指揮者の延長線上にいたり「集合線に集めよ」と合図する。

7 順位の決定

(1) 行動審査得点、計時審査得点及び総合審査得点を加算し、総得点の大なるものを優位とする。

(2) (1)の総得点が同じ場合は、計時審査の所要時間（100 分の 1 秒まで計時）の速いものを優位とする。

(3) (1)及び(2)の得点と同じ場合は、出場隊員の平均年齢（小数点第 1 位四捨五入）が高いものを優位とする。

8 操法の中止

操法の実施中、隊員に不測の事故等が発生し、操法の続行が不可能と認められる場合は、事故発生から 90 秒を経過した時点で審査長の判断により、操法中止を命令し集合線に集める。

9 異議の申し立て

審査の結果等については、一切異議の申し立てをすることはできない。

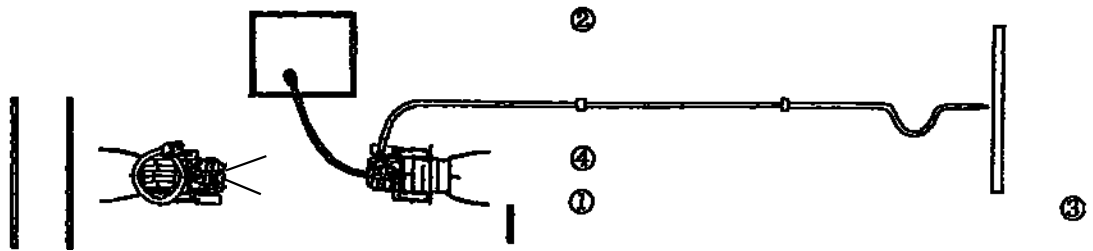
総 合 審 査							
				出場隊			
				回 目	コース	審査員	
	項 目	持点数	得点数				
1	士 気 ・ 規 律	5					
2	敏 捷 性	5					
3	確 実 性	5					
4	器 具 整 備 取 扱	5					
5	安 全 性	5					
得 点 合 計		25					

行 動 審 査

	操 作 員	持 点 数	減 点 数	得 点 数
1	指 揮 者	10		
2	1 番 員	10		
3	2 番 員	10		
4	3 番 員	10		
5	4 番 員	10		
得 点 合 計		50		

指 揮 者

出場隊			
回 目	コース	審査員	



位置	減 点 事 項	減点数		位置	減 点 事 項	減点数	
①	集 合 指 揮 位 置 不 適	1		④	服 装 点 検 監 視 不 適	1	
	集 合 号 令 不 適	1			服 装 点 検 不 適	1	
	点 呼 の 号 令 不 適	1			点 呼 の 号 令 不 適	1	
	開 始 報 告 不 適	1			終 了 報 告 不 適	1	
	想 定 付 与 不 適	1			解 散 時 の 号 令 不 適	1	
	定 位 へ の 号 令 不 適	1			全般	士 気	1
	操 法 開 始 の 号 令 不 適	1		規 律		1	
	台 車 旋 回 監 視 不 適	1		転 倒		2	
②	監 視 位 置 不 適	1		分 担 外 操 作		2	
	監 視 不 適	1					
③	火 点 指 揮 位 置 不 適	1					
	火 点 状 況 監 視 不 適	1					
	放 水 中 止 の 号 令 不 適	1					
	操 作 状 況 監 視 不 適	1					
	鎮 圧 状 況 確 認 不 適	1					
	集 合 号 令 不 適	1					
					減 点 合 計		

持 点	減 点	得 点
1 0		

1 番 員

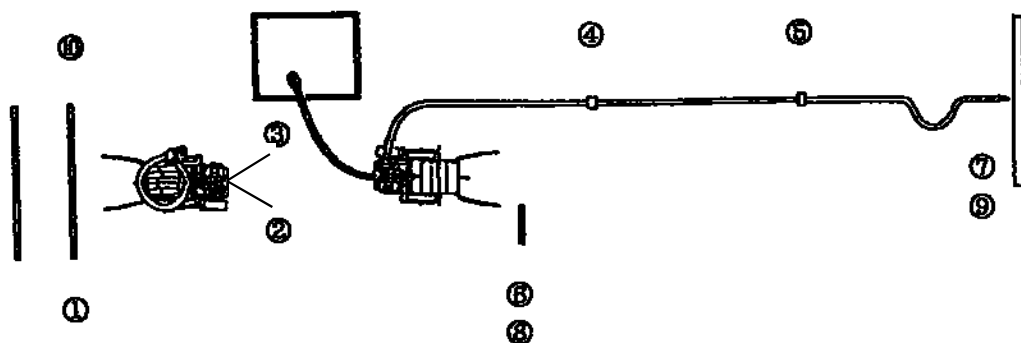
出場隊			
回 目	コース	審査員	

位置	減 点 事 項	減点数	位置	減 点 事 項	減点数
①	集 合 状 況 不 適	1	⑤	余 裕 ホ ー ス 不 適	1
	番 号 脱 落	1		停 止 線 無 視	2
②	定 位 の 誤 り	1		ノ ズ ル 操 作 不 適	1
	補 助 姿 勢 不 適	1		放 水 姿 勢 不 適	1
	操 法 開 始 の 号 令 前 に 操 作	2		放 水 中 止 の 復 唱 不 適	1
③	④ の 合 図 前 に 移 動	1		排 水 操 作 不 適	1
	吸 管 搬 送 前 に 操 作	1	⑥	筒 先 離 脱 不 適	1
④	ホ ー ス 搬 送 不 適	1		筒 先 搬 送 不 適	1
	筒 先 搬 送 不 適	1	⑦	筒 先 収 納 不 適	1
	第 3 ホ ー ス 展 張 不 適	1	⑧	集 合 状 況 不 適	1
	筒 先 結 合 不 適	1		服 装 点 検 不 適	1
	注 水 姿 勢 不 適	1	全般	士 気	1
	②の第3ホース結合前に移動	1		規 律	1
	放 水 開 始 の 合 図 不 適	2		転 倒	2
				分 担 外 操 作	2
		機 材 取 扱 い 不 適		2	
			減 点 合 計		

持 点	減 点	得 点
1 0		

2 番 員

出場隊			
回 目	コース	審査員	

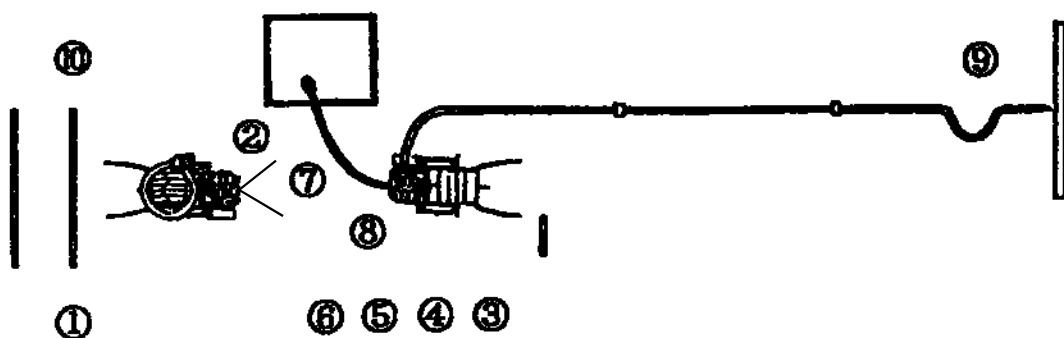


位置	減 点 事 項	減点数	位置	減 点 事 項	減点数
①	集 合 状 況 不 適	1	⑥	伝 達 位 置 不 適	1
	番 号 脱 落	1		伝 達 要 領 不 適	1
②	定 位 の 誤 り	1	⑦	伝 達 終 了 合 図 不 適	1
	支柱固定不適（上げ）	1		注 水 補 助 不 適	1
	牽 引 姿 勢 不 適	1		放 水 停 止 の 合 図 不 適	1
	操 法 開 始 の 号 令 前 に 操 作	2		伝 達 経 路 不 適	1
③	牽引ロープ収納不適	1	⑧	伝 達 位 置 不 適	1
	支柱固定不適（下げ）	1		伝 達 要 領 不 適	1
	④ の 合 図 前 に 移 動	1	⑨	伝 達 終 了 合 図 不 適	1
	吸管搬送前に操作	1	⑩	集 合 状 況 不 適	1
	第 1 ホース展張不適	1		服 装 点 検 不 適	1
	余 裕 ホース 不 適	2	全般	士 気	1
	放 口 結 合 不 適	1		規 律	1
④	ホース搬送不適	1		転 倒	2
	第 2 ホース展張不適	1		分 担 外 操 作	2
	第 1 ・ 第 2 ホース結合不適	1		機 材 取 扱 い 不 適	2
⑤	第 2 ・ 第 3 ホース結合不適	1	減 点 合 計		
	放水開始の復唱不適	1			
	伝 達 経 路 不 適	1			

持 点	減 点	得 点
10		

3 番 員

出場隊			
回 目	コース	審査員	

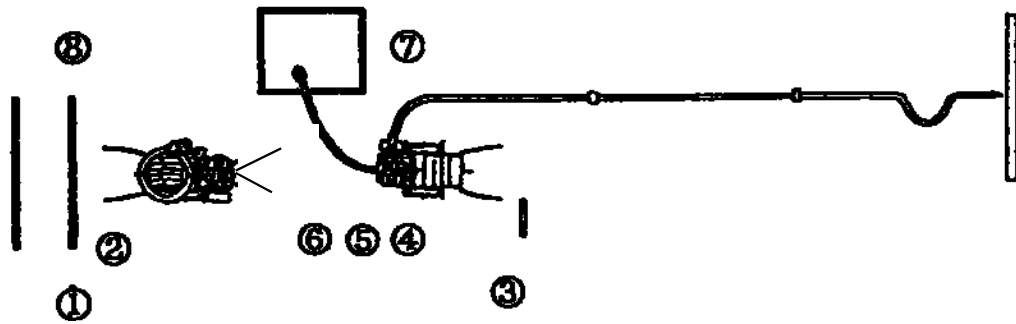


位置	減 点 事 項	減点数		位置	減 点 事 項	減点数	
①	集 合 状 況 不 適	1		全般	士 気	1	
	番 号 脱 落	1			規 律	1	
②	定 位 の 誤 り	1			転 倒	2	
	支柱固定不適（上げ）	1			分 担 外 操 作	2	
	牽 引 姿 勢 不 適	1			機 材 取 扱 い 不 適	2	
	操法開始の号令前に操作	2					
③	牽引ロープ収納不適	1					
	支柱固定不適（下げ）	1					
	④ の 合 図 前 に 移 動	1					
④	④の協力無く吸管搬送	1					
⑤	吸 管 伸 長 不 適	1					
⑥	吸 管 結 合 補 助 不 適	1					
⑦	吸 管 投 入 不 適	1					
⑧	吸 管 ロ ー プ 結 着 不 適	1					
⑨	注 水 補 助 不 適	1					
⑩	集 合 状 況 不 適	1					
	服 装 点 検 不 適	1					
					減 点 合 計		

持 点	減 点	得
10		

4 番 員

出場隊			
回 目	コース	審査員	



位置	減 点 事 項	減点数		位置	減 点 事 項	減点数	
①	集 合 状 況 不 適	1		⑦	ポ ン プ 停 止 不 適	1	
	番 号 脱 落	1		⑧	集 合 状 況 不 適	1	
②	定 位 の 誤 り	1			服 装 点 検 不 適	1	
	操 法 開 始 の 号 令 前 に 操 作	2		全般	士 気	1	
	操 作 状 況 確 認 不 適	1			規 律	1	
③	動 作 確 認 の 合 図 不 適	1			転 倒	2	
	③ の 協 力 無 く 吸 管 搬 送	1			分 担 外 操 作	2	
④	吸 管 伸 長 補 助 不 適	1			機 材 取 扱 い 不 適	2	
⑤	吸 管 結 合 不 適	1			台 車 位 置 不 適	2	
⑥	吸 管 搬 送 合 図 不 適	1					
	吸 管 投 入 補 助 不 適	1					
⑦	揚 水 不 能	5					
	余 裕 ホ ー ス 不 適	1					
	予 備 送 水	5					
	放 水 開 始 の 受 達 不 適	1					
	送 水 圧 力 不 適	5					
	送 水 中 止 の 受 達 不 適	1					
減 点 合 計							

持 点	減 点	得 点
1 0		

計 時 審 査				
	出場隊			
			審査員	
回 目	コース			
計測員	計 時 記 録			
1	秒			
2	秒			

※ 計測は、1 / 100 秒（小数点第 2 位）までとし、計時記録 2 者のうち
中間値のものを、決定タイムとするものとする。

決 定 タイム	秒
------------	---

換算点	点
-----	---

得点換算表

秒 数	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
得 点	25	25	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14

秒 数	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
得 点	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0